

都田ダッシュ村 - 体験を促進するライブ技術 -

静岡県浜松市立都田小学校 小川 雅弘

1. 都田ってどんなところ？

都田小学校は、全校児童 127 名の全学年単級の小規模校である。新任の私に子供たちは、都田地域が自然に恵まれきれいなところであり、収穫される農産物もおいしく、昔からのものも多く伝わる良いところだと、一生懸命伝えてくれた。しかし、「どうして?」「なぜ?」と聞きなおされると、「おじいちゃんが言っていた」というように何もその内容は答えなかった。子供たちは身近な地域について、見聞きした経験が有り、ある程度の知識を知ってはいるが、実際に体験した経験は皆無に等しかったのである。そんな子供たちを見て、地域の主要産業であったはずの農業生産活動を実際に体験させることを通して、見聞きし得た知識から経験に基づいた知識へと変容させたいと願った。こだわりを持って生産活動に打ち込むことによって、生産物の変化に敏感になり、事物を詳細に観察する力を養いたいと考えたのである。そして、体験や経験に裏付けられた知識を持つことによって、外部への情報発信に自信を持たせ、小規模校が持つ悩みのひとつである外部とのコミュニケーションを積極的にできる子供の育成をめざした。

2. めざせ！DASH村 - 都田ダッシュ村の開村 -

DASH村という某民放番組のように、こだわりを持って生産活動に取り組み、その中からさまざまなことを感じさせたい、学ばせたいと考えた。そこで、学校から徒歩 7～8 分の休耕田を、子供たちが自由に利用できる農地として借用し活動することとした。子供たちは、農業生産活動を行った経験がなかったので、土地所有者に指導いただくとともに、番組を参考に活動を開始した。子供たちは、野外での体験活動・観察活動ということもあり、楽しく意欲的に活動に取り組むことが出来た。しかし、

A) 1 時間の授業時間の中で活動場所へ出かける事がなかなかできない。

B) 活動場所では楽しく意欲的に活動できるのだが、教室に戻ってくると記憶があいまいになりやすい。

C) しばらく活動場所へ出かけられなかった時など、活動場所を離れた時に活動への興味関心を持続することが難しい。といったことが課題となってきた。

そこで都田ダッシュ村という野外活動場所へ子供たちの興味関心を継続させ、活動場所から離れた教室にいてもその場所の様子を観察することが出来る方法として、離れた場所の様子を見ることが出来るものとして知られているライブカメラとセンサーを設置すれば、以下のような効果があるのではないかと考えた。

- a) 都田ダッシュ村にライブカメラがあれば、教室にいても現在の様子を見ることができ、作業時期などを子供たちと話し合いが出来る。
- b) 過去の画像も見ることが出来れば、教室で活動の振り返りの学習を行いやすい。
- c) 気温・水温など計測データも見ることが出来れば、成長の様子と関連付けての学習が展開しやすい。

しかし、ライブカメラの設置方法やそれを見るための Web 技術などがないなどの壁があった。



3. 変わってきた子供たちの眼

ライブカメラ・センサーを設置する以前の学期途中では、授業として都田ダッシュ村へ出かけ活動していたが、土日など休日に出かけ観察するなどの活動を行っていた子供は、わずか 1 名しかいなかった。学校で栽培活動など行う場合、長期休業前には当番などを決めることが多いが、ライブカメラ・センサーを設置したことがどのくらい活動を促すかを見るために、あえて当番を決めず、夏休み直前に設置した機器の状況と Web を見せただけで夏休みに入った。そして、都田ダッシュ村のホームページをたよりで各家庭に知らせるとともに、ノートに都田ダッシュ村に置き、来訪したときにはコメントを残すように指示した。

その結果、以下のような表れが見られた。

ア. 夏休み期間中に、都田ダッシュ村を訪れた子供は延べ 61 名であった。

イ. 都田ダッシュ村を訪れた子供は 29 名中 20 名であった。

ウ. (3) 2 回以上繰り返し訪れている子供は、10 名であった。

エ．毎日のように来訪した 3 名の子供の家庭ではいずれも接続環境があり，しかも都田ダッシュ村から約 4 k m と離れた，校区でも最も遠い地域の子供であった。

オ．ノートの記事には，はじめて訪れた時の書き込みは，草取りをしたとか，稲が育っていたといった書き込みが多かった。

カ．繰り返し来訪するに従い，計測活動を始める子供が表れたり，比較観察しながら稲の観察をしたり，土の様子や生き物の様子を観察する子供が表れた。

これらのことは，とかく行くことが出来ない場所を見るためのものと考えがちなライブカメラを，行こうと思えば行くことが出来る野外活動場所に設置したことにより，子供たちの野外活動場所への興味関心の継続に効果的であったことを示唆していると考えられる。また，繰り返し活動場所への行動が促されることによって，観察の視点を持つての活動や計測活動など多様な活動を誘発することが出来たと考える。

この活動は，学校だけではシステムの設置からトラブル対処にまでそのすべてに対応することは難しく，子供たちの学習活動が円滑に行うことが出来るように，日夜サポートに回ってくれたスズキ教育ソフトスタッフや，子供たちの活動がより意味のある活動となるように導いてくれ，活動そのものにもサポートしてくれた堀田研究室スタッフの支援があったおかげであったと感謝している。このように，企業や大学などと協働で学習活動を企画運営することは，学習活動を効率的・効果的に行うことにつながり，子供たちの話し合い活動や振り返り活動などの時間を確保することが出来た。

4．新たな都田ダッシュ村

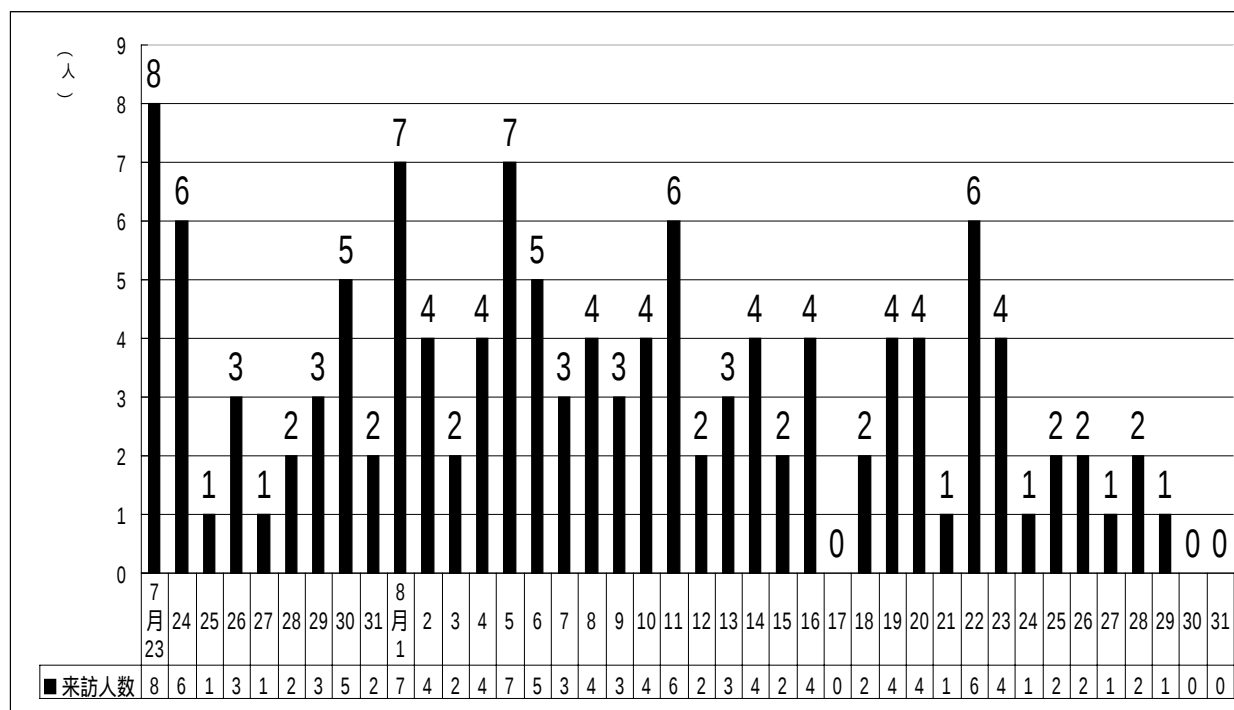
この取り組みによって，子供たちは，それまでは大雑把な観察によって見たつもりになっていたものが，物と物との関係を考えながら観察したり，一定量あたりの変化を観察したりといった事を行うようになってきた。それらは，今年度 5 年生が地域の良さを調べる「都田探偵団」(総合的な学習の時間)で，都田川の良さを調べる活動の中でも川に生息する生物を一定範囲内でカウントして比較するといった活動を思いつき，実践することなどに表れてきた。

今年度の都田ダッシュ村の取り組みにより，子供たちは地域の主要産業であった農業生産活動を実際に体験し，地域で生産される農産物がどのようにして生産されるのかを経験し，生産することの苦労とともに喜びも体験することが出来た。

都田地域のかつて地域の経済活動の中心は小規模経営による農家にあった。しかし，現在の都田地域には，農業生産活動を家庭の経済活動の中心としている家はほとんど見られないという状況である。そこで今後は，地域の経済活動としての農業の問題点や苦労を経験させ，農業を中心とした経済活動が成立しなくなった理由を考えさせることを通して，自分たちの地域を振り返り，自分たちができることを考え提案できる活動へと発展させたいと考えている。

そのためには，単なる生産活動ではなく，生産者と消費者という関係を設定し，生産者は需要に答えるという責任を生じさせる中で活動を展開すれば，経済活動としての生産活動の苦労や責任を学び，地域の農業活動の問題点や解決のための提案を考えることが出来るのではないかと考えた。そこで，都田ダッシュ村での生産品を，交流相手より発注を受け生産することに変え，責任のある生産活動とするとともに，栽培状況を的確に伝え，責任のある情報発信を能力の伸長をはかり，小規模経営による農業生産活動の課題への提案を考えることが出来る「受注生産活動による都田ダッシュ村 2003」を行いたい。

都田ダッシュ村の夏休み来訪児童数



都田ダッシュ村Web <http://project.suzukisoft.co.jp/dash/>